

J-PULSE ニュースレター

No.3 2006年3月23日

J - PULSE (Japanese Population-based Utstein-style study with basic and advanced Life Support Education)



研究班の活動はまもなく 3 年目を迎えます。引き続き、本研究で得られた情報をみなさんと共有し、『心原性院外心停止の実態を知り、対策を検討することで、心臓突然死患者さんの救命率向上を図る』という目標を、皆さんとともに達成していきたいと考えています。

各テーマの進捗状況をお伝えします

J - PULSE 1:

大阪府における院外心停止症例の全データを集計解析するシステムの構築作業を引き続き行っています。1998 年 5 月から 6 年間の約 30,000 例に及ぶデータの解析作業を進め、院外救急システムの問題点の検証、院外心停止の疫学的特徴を調査するとともに、心臓マッサージのみの心肺蘇生の有効性の検証も進めています。前向き研究として、2005 年 12 月から 3 ヶ月間、高槻市において救命意識と AED に対する認知を高めるためのキャンペーンを集中的に行い、その効果を評価する研究も行っています。また、心臓マッサージのみに単純化した蘇生法講習会の有効性に関する研究も進めています。これらの研究成果は本年度中に報告できる予定です。

J - PULSE 2:

難治性心室細動に対する 群抗不整脈薬のニフェカレントのエビデンスを確立する為、レジストリ研究を開始しました。

J - PULSE 3:

救急車と救急病院をインターネットでつなぎ、病院外での救急医療の質の向上を実現するシステムの開発 (モバイルテレメディシン) をすすめています。2006 年 3 月 17 日には公開セミナーを行いました。

J - PULSE 4:

心肺蘇生と AED に関する国際的に標準化された教育システムの導入と効果の検証を進めています。



「あなたの勇気がいのちを救う」救命都市高槻キャンペーンについて

AED を有効に機能させて院外で心停止となった方々を救命するためには AED を設置するだけでなく、市民の方々の救命に関する意識、AED に対する認知を高めていく必要があります。J-PULSE 研究班では、高槻市をモデル地域として、市民の方々の救命意識を高めることを目的に心肺蘇生法と AED 普及に関するキャンペーンを行い、その効果を検証する研究を進めています。2005 年 12 月から 3 ヶ月間、市民公開講座の開催、ポスターやちらし、高槻市の広報やメールマガジン等を通じての情報提供などを行いました。およそ 1000 名の方々にご協力いただき、キャンペーン期間の前後で救命に関する意識がどのように変化したかを調査する予定です。本キャンペーンが全国的に救命意識の向上をはかる取り組みが展開されていくきっかけになればと考えています。



『院外心停止者の救命率向上に対する自動体外式除細動器を用いた心肺蘇生法の普及とエビデンス確立のためウツタイン様式を用いた大規模臨床研究』(主任研究者:野々木 宏)

Japanese Population-based Utstein-style study with basic and advanced Life Support Education

長寿科学振興財団 海外派遣事業 成果報告アリゾナ大学

Salver Heart Center を訪問して

国立循環器病センター 緊急部 角地 祐幸



長寿科学振興財団の助成により、「急性心不全とその関連疾患に対するより効果的かつ効率的な治療等の確立に関する臨床研究」の一環として、2005 年 9 月 17 日より 11 月 18 日まで、アリゾナ大学 Salver Heart Center にお世話になりました。同大学では院外心停止の救命率向上のため、疫学的研究だけでなく、豚を使った動物実験、それらの知見を元にした臨床研究や一般市民に対する心肺蘇生教育というように、包括的な活動を行っています。

疫学研究については Research Nurse を州の救急サービスの Director として派遣し、アリゾナ州全域における院外心停止のデータベース作成を行っています。州政府の支援を受けながら個人情報管理し、データの質を保証するために登録に頼るだけでなく訪問調査を行い、予後調査も行っておられます。さらにホームページを活用しデータ収集の目的や集計結果を公開し、一般市民にも協力と理解を求めています。

さらに Bystander CPR を増やすため、疫学的研究と豚を使った動物実験の結果をふまえ、心臓マッサージのみによる心肺蘇生法(Continuous Chest Compression: CCC) を強く推奨しています。CCC は Bystander を増やすだけでなく、実験では人工呼吸による心臓マッサージの中断をなくすことで冠灌流圧を高く維持することが可能で、心拍再開率だけでなく、24 時間後の神経学的予後も良好であることが報告されています。これらの結果は昨年発表された 2005 年の国際ガイドラインにも多大な影響を与えており、心肺蘇生に対する同大学の質の高い活動が評価されたものと考えます。

このようにアリゾナ大学では疫学、実験、臨床、教育が相互作用し、よい結果が得られているようです。

さらに今回は訪米中に大阪、東京、アリゾナを結んで J-PULSE-Arizona Web カンファレンスを行うことができました。現在もこのシステムは維持されており、日本から心肺蘇生に関する Evidence を発信するために今後も同大学と協力を続けていきたいと思っております。



AHA2005 参加と米国の臨床研究関連施設の視察

国立循環器病センター 専門臨床研究者 米本 直裕

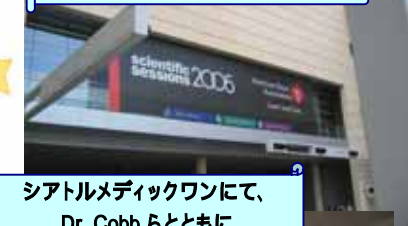


J-PULSE 研究班の活動の一環として、2005 年 11 月の 12 日間、アメリカ、ダラス市で行われた米国心臓病学会(AHA)への参加及び 2 つの臨床研究センター、シアトル市の救急システムに関する視察を行いました。AHA は世界的な循環器領域の学会であり、毎年、最先端の知見が発表されています。蘇生領域に関しても専門のセッション(RESS)が設けられています。J-PULSE 研究班からも 4 題の演題を発表しました。

また、ボストン市のハーバード臨床研究センター(HCRI)、ノースカロライナ州ダラム市のデューク臨床研究センター(DCRI)を訪問しました。いずれの施設も循環器領域における大規模な臨床研究を世界的な規模で運営しています。DCRI は嘉田先生が 2 ヶ月間滞在され、前号で報告を行っています。

シアトル市は心停止の救命率が高さで世界的にも有名な都市であり、消防、病院、自治体が一体となった救急システムが作られています。今回はこのシステムの核となっているハーバービュー医療センターなどを訪問しました。ここは公共の場所への AED 設置の有用性を証明した PAD Trial が行われた地域でもあります。今回の視察を通じた得た様々な知見やネットワークを、今後の研究班の活動に役立てていけるように努力していきたいと思っております。

ダラス市の AHA2005 の会場



シアトルメディックワンにて、Dr. Cobb らとともに



J-PULSE 事務局:

国立循環器病センター 心臓血管内科 野々木部長室

〒565-8565 吹田市藤白台 5-7-1 FAX: (06)6872-8100

ホームページ: <http://j-pulse.umin.jp/>